

教材名		『ふるさと山梨』の章・ページ	
山梨の土地のあらまし		第1章① P. 4～7	
教科(領域)等	社会科	学年(分野)	2学年地理的分野






1. 教材のねらいと概要

<p>山梨県全体の自然を大観する学習を行い、山梨県の自然の特色を大まかに理解させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 山梨県の主な山、川、自然公園、湖沼等の名前や基礎的データを表にまとめたり、写真や地図を掲載している。 P. 6, 7では、細かなデータや、地形分類図・資質分布図・現況土地利用区分図を掲載している。

2. 活用例

教科名等	社会科地理的分野	単元(題材)名等	日本の諸地域中部地方	
活用場面		活用のポイント		
			時間	
中部地方の学習の場面で、山梨県の自然的特色を学習する。		<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの白地図に、山梨県の主な山、川、自然公園、湖沼等を書き込み、土地がどのように利用されているか、色分けする。また、他地域と比べるような表を作成する。 キャラクターの投げかけに対して、資料を基に考察する。 		20～50分 (家庭学習を含む)

3. キャラクターの投げかけの意図と解答

ページ	投げかけの言葉	意図	解答例
P. 4 	山梨県の土地全体の特徴を自分の言葉で説明してみましょう。	生徒が適切な資料を根拠に、自分の言葉で山梨県の自然的特色を説明できるようにする。	地図や表を作成し、言葉で特徴的な事柄を説明する。(ワークシート参照)
P. 6 	周囲の高い山々は、いったいどうやってできたのかな。	山梨県が周囲を高峻な山々に囲まれていることに改めて気付かせ、山のでき方や、土地利用に関心を持たせる。	(P. 7の地質分布図を根拠に)富士山はと八ヶ岳は、火山の噴火により、南アルプスや秩父山地は火山ではなく、海洋プレートの動きによりそれぞれできた。
P. 6 	森林の働きって何だろう。豊かな森林を、どのように活用してきたのだろう。	森林の働きを改めて考えさせ、山梨の豊かな森林を大切にすることを養わせたい。	森林は建築材や、燃料になっていた。また、森林が水害を防ぐとともに、良質な水の人々にもたらしてきた。
P. 6 	森林面積の割合が山梨県よりも高いのはどこかな。	他県にも目を向けさせ、比べることで、山梨県の特徴を理解できるようにする。	「統計で見る都道府県のすがた2016(総務省統計局)」によると、1位高知県(83.3%)、2位岐阜県(77.1%)、45位千葉県(31.1%)、46位茨城県(30.9%)、47位大阪府(30.5%)
P. 7 	山梨県の土地全体の特徴を自分の言葉で説明してみましょう。	説明する上でのキーワードを確認しておく。どうして、いつからこの特徴が見られるのかも考えさせたい。	南アルプス(赤石山脈)・富士山・八ヶ岳・奥秩父連峰に囲まれている。面積の約8割が森林、富士川(釜無川)水系、相模川(桂川)水系、多摩川(丹波川)水系、等の用語を使って説明できる。

4. 写真・資料の補説

(1)甲府盆地から東西南北を眺めると(P. 4, 5の写真)
それぞれの写真が撮影された位置に留意したい。どこから撮影したか、考えさせたい。(4つの写真は同じ場所から撮影したものではない。)

(2)おもな川・おもな湖沼

日本三大急流: 他は、最上川(山形県)、球磨川(熊本県)
日本三大湖沼: 他は十和田湖(青森県・秋田県)、琵琶湖(滋賀県)と言われているが、大きさを比較したものではない。大きさでは琵琶湖、霞ヶ浦(茨城県)、サロマ湖(北海道)の順である。

5. 参考文献・関連施設等

参考文献名	発行所	著者・編者	発行年
やまなし県のあらまし2016	山梨県広聴広報課	山梨県広聴広報課	2016
山梨県強靱化計画(素案)	知事制作局	知事制作局	2016
参考ホームページ			
山梨県公式ホームページ → サイト内検索に「やまなし県のあらまし2016」と入力する。			